５つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小手澤の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
草莽荘の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.556-557
with コロナの間伐を進めています

【定例活動報告】
知足の森

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

コロナ禍で様々な制約が続く中、少しその猛威がおさまったかに見える日々に定例活動もまた少しの落ち着きを見せ始めています。定例活動にもこれまでの活気が戻り、森に若者たちの声が響き、ベテランチームも作業に追われる３月です。暖かさもあいまって、森での、森らしい時間が流れています。

中高生の若者の森づくりは、森での間伐をはじめとした森林整備活動、さらにその材をいかす活動を東京学芸大のExplayground事業の一つであるGREEN TECH ENGINEER LABとしての活動が軌道に乗り始めました。さらにその活動の関連で地域からも木工ワークショップなどの依頼も受け始め、森とつなぐ、という本会の３つの活動の柱を自然と体現してくれるよう

になっています。特に興味深かったのは、学芸大とOECDとで企画されたワークショップ終了後のセッションに呼んでいただき事例紹介を行いました。その生徒が作ったスライドがまさにこの３つの柱を表していて、自然にそのマインドを持って活動をしていることがわかります。GREEN TECH ENGINEER LABの活動から、でご紹介しますのでそちらもぜひご一読ください。

第一日曜日は森での活動を行いました。午前中はいつも通り、お寺の後ろの森で間伐を行いました。私は一年生だけのチームだったので不安でしたが、きちんと一本、木を切れたのでよかったです。木を倒す際に足場の不安定なところなどが多かったのですが、しっかり足場を見つけることで、木が切りやすくなるのできちんと足場を見つけるのが大切だと実感しました。午後はいつもとは少し離れた雑木林の整備を行いました。初めは木がたくさん生えていて、あまり日光が通らなかったのですが、作業をしていくうちに少しずつ光が入るようになり、最終的にはとてもきれいになってとても達成感がありました。午後に切った木は、つたなどが絡まっていたりいろんな種類の木があり、それぞれ工夫して切ることができました。これからの活動でも足場の確保や切り方の工夫などをしながら、木を切っていきたいです。

今井　裕美（GREEN TECH ENGINEER LAB　中学２年）

第三日曜日の活動では、主に果樹園の周りで活動しました。午前中は果樹園の奥で木を切り、午後は果樹園のツツジの剪定をしました。

午前中に切った木はいつも長福寺の森で切っている木よりもずっと太かったため、いつもよりも多い人数で1本を切りました。切ることは大人の方々のアドバイスもあって、スムーズに行えたのですが、切った木を運ぶ方が大変でした。長福寺の森では、切った木は土砂崩れを止めるために近くにそのまま置かれるのですが、今回切った木は私たちがCLTで使えるように加工するため、森の入り口近くまで運ばないといけませんでした。4人で斜面を登りながら丸太を運ぶのは、今回の活動の中で一番の重労働でした。

午後の剪定では果樹園で、もうすぐ咲く桜の木の周りのツツジを剪定しました。木の近くが蒸れてしまうと生育が悪くなってしまうからだと、教えてもらいました。私は切られたツツジの木をハサミでバラバラにしました。いつも使うのこぎりとはまた違った切れやすさで楽しかったです。

平戸　華凜　（GREEN TECH ENGINEER LAB　中学３年）

桜井尚武の森のコラム

「ヤマウルシ(*Rhus trichocarpa*)とツタウルシ(*R. ambigua*)」

図1　新芽どき

20090627輝葉峡水上

図2　ヤマウルシ

20070805水上

図3　紅葉した葉

20070912尾瀬ヶ原

春の山野は落葉樹の若葉が新しい芽を出して成長し始める時期です（図1）。これから初夏にかけて注意をしなければならない樹種にウルシ類があります。ヤマウルシは毒性が強く、この木の樹液に皮膚が触れると、触れたところがかぶれて水膨れができて相当な痒さに襲われます。できた水膨れを掻き壊すと漏れ出た体液のついた場所がまたかぶれるという悪循環を引き起こします。ほとんどかぶれない人もいますが、私は毎年この時期の山仕事でかぶれて完治するまでの一週間位は痒みとの闘いの日々が続きました。若芽から放出される揮発成分だけでもかぶれるという人がいるそうですので、感受性の高い人は常に長袖の下着を着て手袋をして防護すると教わりました。

このヤマウルシは北海道から九州までの山野に普通で、千島列島南部から朝鮮半島、中国にも分布する、樹高が10m近くにまでなる落葉の小高木です。雌雄異株で50㎝位になる3~5対の全縁か鈍鋸歯のある小葉からなる奇数羽状複葉を枝先に輪生状につけます（図2）。盛夏のこの葉は濃緑色でいかにも危険に見えます（いわれてみれば、ですが）。秋には鮮やかな紅葉となり山に彩を添えます（図3）。工芸品に使われる漆分もありますがとれる量が少ないので実用にはならないそうです。

同属のツタウルシは木本の蔓植物で雌雄異株、他の樹木などに気根で巻き付いて高く上ります（図4）。互生する三出複葉の小葉は全縁か鈍鋸歯で長い葉柄を持っています。分布範囲はヤマウルシとほぼ同じで、林床に広範囲に繁茂している場合もよくあり腰を下ろすときに注意が必要です（図5）。毒性はヤマウルシより強いのではないかと前述の長袖の人が言っていました。共に、秋に紅葉する頃になるとかぶれる心配はほぼ無くなります。

桜井　尚武（本会、会員）

図4　ツタウルシ　20060813玉原湿原

図5　ツタウルシ　20090822野反湖草津

【GREEN TECH ENGINEER LABの活動から】

OECDのワークショップで事例紹介

今回、学芸大学とOECD のワークショップのポストセッションに参加させていただきました。その中でGTEラボの紹介をするとともに、金子先生をはじめとした学芸大学の先生方から、学校や、GTEラボについての質問を受けました。ポストセッションの中で大人も一緒に学ぶ学校などの説明があり、今、中学校に通う私自身も新しい学校の姿について考えさせられました。GTEラボの紹介では、間伐の活動やCLTでの活動についてパワーポイントを用いて説明しました。

質疑応答では、GTEラボでやっていて楽しいことや、どんな大人が参加してくれたら嬉しいかなどが聞かれて、GTEラボで自分がしていることなどを交えながら答えました。

新しい学びについて考えられ、とても楽しかったです。

山田　ひとみ
（GREEN TECH ENGINEER LAB　中学３年）

若者の自主講座「レッツウッドクラフト、小物入れを作ろう」を開催しました

今回は小金井市の貫井北町分館で講座を開きました！

これまで毎日のように集まりミーティングや様々な準備を行ってきましたが、いざ本番となるとこれまでの準備で足りていたか、自分の担当は大丈夫なのかなどと色々心配になり、1時間以上あった準備時間はあっという間に過ぎていきました。

時間になり、参加者の方が会場に入ってくると講座を開催することの実感が改めて湧いてきて、頭の中によぎる不安よりもこれから始まるんだという実感の方が私の中では大きかったです。

自分の担当のところだけをやるのではなく、他の人の担当もみんなで手伝って講座を進めていったので、私の説明に付け足しをしてくれたり、木のパーツを選ぶときに声をかけてくれたりと助けてもらった部分がたくさんありました。

最後に講座が終わってから反省会をしたのですが、公民館の方に労いの言葉を頂けたときは本当に嬉しかったです。講座を開くにあたって経験したことは今後活かせる時があるだろうし、GTEラボの活動も知ってもらえたので、とてもいい経験をさせてもらえたなと思います。成功したこともある一方、私たちの基本的技術があまりなってないなと感じたのでこれらがちゃんとできるラボの中学生になるために色々努力していきたいです。

松本　七凪
（GREEN TECH ENGINEER LAB　中学２年）

若者の自主講座「森のボードゲーム、この木なんの木売れる木です」を開催しました

小金井市の貫井北町分館で講座を開きました。12月からの長い準備期間で当初は余裕があるとおもっていましたが、あっという間に本番になってしまいました。

【ボードゲームを中学生が0から作る】

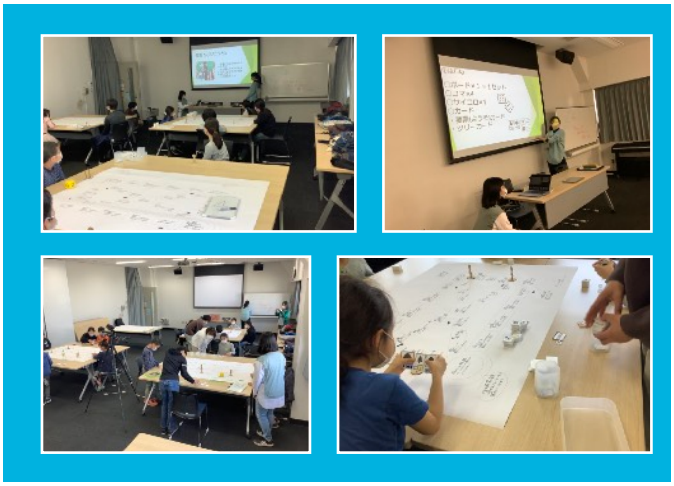
これを実際にやりとげられるなんて、最初は自分たちでもできると確信を持っていませんでした。ゲーム設定のときには様々なゲームを見て、逆に自信がなくなってしまっていました。それで

もメンバーの沢山のアイディアが支えになって完成することができました。

特にこの一週間はとても忙しく大変なものになったと思います。直前までカードづくりやシールを貼りを手伝ってくれたメンバーの皆さんと、様々なアドバイスをしてくれた宮村先生に本当に感謝です。

13:00になって参加者のみなさんが入ってきました。今回のイベントは小学生が主な参加者しでした。そのためゲームの難易度設定も苦労しましたが、参加してくれた人たち全員が頭で考えながらどうやったら儲かるか一生懸命、試行錯誤してゲームを楽しんでくれました。

終盤にある小学生が「2回目はないの？」と言ってくれたときはその一言がとても嬉しく、達成感に満たされました。



私たちのチームは今まですのこを作ることをメインで行っていました。すのこを作るときはサイズを考えるだけで形は一般的なものを参考にしていたので今回の苦労は体験したことのないものでした。新しいことに挑戦しづらいこの頃てすが、この企画を通してとても大きな経験値をえることができました。そして様々な反省も含め次の機会に活かしていきます。

鈴木　杏
（GREEN TECH ENGINEER LAB　中学３年）

東海大高輪台高校SSH実習に代えて

コロナのため、定期試験を安全に実施するために残念ながら中止となった現地実習ができませんでした。しかし、オンライン授業を経て実際に森に行きたい、という４名が定例活動に参加してくださり、今後も探求活動で参加してくれることになりました。その４名の感想を紹介します。

本来ならば、クラス全体で森林へ行き、実習を行うはずでした。しかし、それがかなわず我々４人が行くことになりました。現地では、木の伐採、竹の伐採など森の中にある定点カメラの電池の交換をしました。木をのこぎりで切る、山地の急斜面を歩くなどと、日常生活では味わえない、貴重な体験ができました。林業をただの力仕事だと思っていました。しかし、木をどの方向に倒すか、そのように倒すにはどうすればよいのかと、思考力も想像力を必要とすることを発見できました。木を伐採するときののこぎりと竹を伐採するときののこぎりには相違点があることについて知ることができました。我々は、高校二年生での課題実験で森林を大きなテーマとして進めていきたいと思っています。今日の訪問を終えて、たくさん調べたいことが出てきたのでより濃い研究内容を追求するために、メンバーと一緒に試行錯誤していきたいと思います。課題実験を有意義なものにできるように、一歩ずつ力強く邁進していきたいと思います。

常深　正泰（東海大高輪台高校１年）

私は今回、高校での課題実験の題探しという目的で初めて森林研修に参加しました。

今回やったことは、主に木、竹の伐採と鹿を映す定点カメラの電池交換でした。

伐採は経験したことのない活動でしたし、定点カメラの場所への移動や過去カメラがあった場所への移動も日頃歩くことのない山道で貴重な体験でした。

木の伐採では、木を倒すときにどのような向きに倒すのか、そしてその向きに倒すにはどのように切っていくのかを考えてやる必要があり体力だけでなく頭も使って切っていることを知りました。

また木を伐採するときに力の入り方により切りやすさが違うことなど想像するだけでは気が付かないことも知れ面白かったです。

森林の維持はこのような大変さがあり、常に手入れを欠かさないことが重要であることをしれました。今後、実験のためにまた参加すると思いますがその時にもまた新しい発見があることが楽しみです。

小澤　彩豊（東海大高輪台高校１年）

今回来年始まる課題研究のテーマ探しということで参加しました。

自分は山に行くことが初めてで、都会に住んでいる以上自然と触れ合うこともなく、知識も学校で教えられたものくらいでした。習ったことをイ

メージするにしても教科書の写真くらいでしかできませんでした。しかし実際足を運んでみると、どこを見ても山が聳え立つばかりで体全体で自然の壮大さを味わうことができとても興味が湧いてきました。木一本切るのに何十分もかかり、木をどこに倒すのか、その場合どの角度にどう切り込みを入れればいいのかを４人で試行錯誤し、自分とは全く無縁だった林業の大変さや面白さを感じることができたと思いました。何をするかはまだ具体的に決まっていませんが、実際の森を使ってデータを収集できる機会は滅多にないと思うので、４人で試行錯誤して興味深い研究ができたらと思いました

今回参加してみて以前より自然に対する興味が湧きこれからもこの活動に参加していきたいとおもいました。

屋　心愛（東海大高輪台高校１年）

NPO法人緑のダム北相模の活動に参加させてもらって学べたことが大きく二つあります。

一つ目は木を切ることの大変さです。今回はのこぎりで切らせてもらい、受け口を切るのがなかなか斜めに切れず結構時間がかかってしまいました。しかし林業をしている人の大変さが少し分かりとても貴重な体験が出来ました。

二つ目は一つ目にも関係があるのですがこういう活動の大切さです。僕は今子供関係のNPOの活動を少しお手伝いさせてもらってますが、とても沢山のことを学ぶことが出来ます。今回の活動も森を守れると同時に森と人間との関係性、これからの森の在り方、自然とのかかわり方などここに書ききれないほど沢山学ぶことが出来ました。このような活動がもっと多くの人にやってもらえるように考えていきたいと思います。

最後に今回やらせてもらった色々な体験を通して、まだ実験内容は決まっていませんが生かさせてもらいたいと思います。またよろしくお願いします。

佐藤　颯（東海大高輪台高校１年）

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
コンサベーション・アライアンス・ジャパン
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　CAJ Conservation Alliance Japan 一般社団法人 コンサベーション・アライアンス・ジャパン